

2024.10.24 (木)
第 16 回例会
(通算3778回)

2024-2025 年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「地域を愛し、未来を語る ロータリーの輪を広げましょう」

第86代会長 高橋 直人
副会長 吉田 英一
幹事 東堂 光春
編集責任者 クラブ会報・雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30 ~ 13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町 5-3 ミツ輪ビル 2F
☎ 0154-24-0860 ☎ 0154-24-0411

2024-2025 年度
国際ロータリーテーマ



2024-2025 年度
R1会長 ステファニー A. アーチック
第 2500 地区ガバナー
小谷 典之 (帯広西 RC)

本日のプログラム 講師例会「ポリオ撲滅に向けて」(理事会)

次週例会 職場訪問例会 (日本銀行 釧路支店)(職業奉仕委員会)

- ロータリーソング：それこそロータリー ■ソングリーダー：杉村 莊平君
- 会員数 105 名
- ビジター
- ゲスト RI2500 地区 第 7 分区ガバナー補佐 佐々木 勉様

会長の時間 高橋 直人会長



会員の皆さま、こんにちは。本日は会長あいさつの前にお知らせをいたします。

早いもので、11月28日に開催させて

いただく年次総会までおよそ1カ月となりました。この年次総会において、わがクラブの会長ノミニー、次年度の理事、役員を選任する運びとなります。年次総会開催にあたり、釧路ロータリークラブ会則第3条第1節に則り次々年度会長の立候補、次年度役員の選出を公示させていただきます。

立候補をお考えの方につきましては、11月7日木曜日までに、理事会への届け出をお願いします。立候補の届けがない場合は速やかに指名委員会を設置し、所定の手続きに則り選定を行ってまいります。会員の皆さま、よろしくお願いいたします。

本日の例会は、佐々木ガバナー補佐のご講話で『ポリオ根絶について』です。数年前までは、国際ロータリーで「ポリオ撲滅」と表現していましたが、最近では「ポリオ根絶」と掲げています。そこで私は不思議に思い、撲滅と根絶の違いを調べてみましたのでお話しいたします。

撲滅は、完全に打ち滅ぼすこと、根こそぎなくしてしまうことという意味があります。根絶は、悪弊などを根元から徹底的に絶やすことという意味があります。

どちらも「悪いものを根こそぎなくする」を意味する言葉で共通点がありますが、根元から絶やすという意味で、撲滅より根絶のほうが徹底している違いがあります。根絶と比較すると、撲滅はやや表面的と考えるということが分かりました。表現の違いですが、国際ロータリーのポリオ根絶に対しての多大なる思いが表現されている感じだと思います。今日の講話を聞き、ポリオについて改めて考えて活動していきたいと思えます。

以上をもちまして本日の会長あいさつといたします。今日も楽しい例会にしましょう。よろしく願いいたします。

幹事報告 東堂 光春幹事

皆さま、こんにちは。幹事報告になります。今週日曜日、N A Y U T A の会と米山記念奨学委員会との合同コンペになります。釧路カントリークラブ東コースで8時54分スタートになりますので、30分前には集合いただくように参加される方は、よろしくお願いいたします。来週の職場訪問例会で日本銀行釧路支店さんにお邪魔するのですが、駐車場に止められませんのでパレスボウルさんに10台、N T Tさんに5台分の駐車場をお借りすることができました。ただ、先週末で既に参加者が36名と結構な方になっておりまして、駐車場が止められない可能性もありますので、乗り合わせ等の工夫をしながら、徒歩で来られる方は徒歩で来ていただくなどでの参加をよろしくお願いいたしますと思えます。

■本日のプログラム■
講師例会「ポリオ撲滅に向けて」

国際ロータリー第 2500 地区第 7 分区

佐々木 勉ガバナー補佐



皆さま、こんにちは。釧路クラブさんにお邪魔するのは、協議会から数えて4回目になります。今日は、例会にお招きいただきましてあり

がとうございます。つたない講話になるかもしれませんが、大先輩を前に緊張もしているのですが、ポリオについて皆さまに学んでいただければと思います。

日頃から釧路クラブの皆さまには、地区活動並びに分区の活動にご理解とご協力いただきまして誠にありがとうございます。10月2日のエンド・ポリオ・サイクリングチャレンジ2024では、マスコミはNHKの桑島局長様にも来ていただきまして、テレビでもラジオでも取り上げていただきまして、私としても小谷ガバナーに対して「やりましたよ」という顔ができました。本当にありがとうございました。

本日の講話では、最初の10分ほどポリオの動画を見ていただきたいと思います。

(動画上映)

ポリオについて基本的な話です。「急性灰白髄炎」といわれます。体に麻痺が生じる病気で、5歳未満の子どもの感染が多く、かつては「小児麻痺」と呼ばれていました。ポリオウイルスに感染することで発症します。治療法は確立されておらず、対処療法が行われます。ワクチン接種によって予防が可能です。感染者の5%ほどが発症します。風邪のような症状、発熱、頭痛、喉の痛み等のみで、自然治癒することもあります。ウイルスが脊髄に感染して重症になると、手足に弛緩性麻痺が現れます。弛緩性麻痺は、一生残ることもあり、呼吸ができなくなるということで、亡くなることもあります。

ポリオウイルスが人の口の中に入り、喉や腸の中で増殖します。感染しても90から95%は、症状が出ないと考えられています。体内に侵入したウイルスは、リンパ管や血液を介して、脊髄、脳に感染します。感染者の便を介して他人に感染するため、下水道の整備が進んでいない不衛生な環境などでは、感染が広がる可能性があります。

日本をはじめ多くの国では、ワクチンの接種が普及していて感染率が非常に低くなっています。ただ、海外の流行地で感染した人から国内にウイルスが持ち込まれることがあります。乳幼児は免疫力がないため、特

に注意が必要です。

ポリオの歴史です。ポリオはワクチンが開発されるまでは、世界各地で流行していました。先ほどの動画にもありました古代エジプトの壁画や縄文時代の人骨にもポリオの症状の特徴がみられるといわれています。ポリオ流行に関する書物の記載は18世紀ころからみられ、1950年代までは、しばしば世界各地で流行しました。1894年、米国で記録された最初の大規模なポリオの流行ということで、バーモント州で18人の死亡と132人の永久麻痺の症例が報告されています。1916年、ニューヨーク州でポリオが大流行し、2,000人以上が死亡、全米ではポリオ約6,000人の命を奪い、数千人が麻痺をしたということです。日本におけるポリオは、1940年代ころから全国各地で流行がみられ、1960年には北海道を中心に5,000名以上の患者が発生する大流行となりました。大流行の翌年1961年にも流行の兆しがあった時点で、当時のソビエト連邦から緊急にワクチンを輸入し、一斉に投与することによって流行は急速に収束しました。これは日本のポリオの患者数の推移なのですが、ピークが1960年のところになり、その後は急速に減っております。

ポリオ撲滅への取り組みと経過です。先ほどの動画でもありました1979年、国際ロータリーは、フィリピンで生後3カ月から36カ月の子ども600万人に対して、5カ年計画のポリオ免疫活動を開始しました。これが、ロータリーがポリオ撲滅に取り組んだ第一歩と言われております。

1985年、国際ロータリーは創始80周年に当たり公衆衛生イニシアチブに対する最初で最大の国際的民間セクター支援である「ポリオプラス」を立ち上げ、当初の募金目標は1億2,000万ドルでした。これも、先ほどの動画の中で「寄付、達成しました」と言っていたのがこの時になります。

ポリオプラスという言葉が出てきました。ポリオプラスというのは、ポリオの予防接種の他に「はしか」「ジフテリア」「破傷風」「百日咳」「結核」、これらの予防接種を一緒に行うことでポリオプラスと呼ばれております。

1988年、国際ロータリーと世界保健機関(WHO)が「世界ポリオ撲滅推進計画」を立ち上げました。当時は125カ国で35万人のポリオ患者がいると推定されていました。

1994年、国際ポリオ撲滅認証委員会は、「南北アメリカ大陸からポリオが撲滅された」と発表しました。2000年、世界の人口の約10パーセントにあたる5億5,000万人の子どもたちが経口ポリオワクチンを接種しております。同じ年に、「オーストラリアから中国にかけての西太平洋地域はポリオがなくなった」と宣言されております。

2003年、ロータリー財団は12カ月間のキャンペーンで1億1,900万ドルを集めました。ポリオ撲滅へのロータリーの寄付総額は5億ドルを超えております。2003年時点で、アフガニスタン、エジプト、インド、ニジェール、ナイジェリア、パキスタンの6カ国が野生株の常在国と言われております。

2004年、アフリカでは23カ国で8,000万人の子どもを対象にした「全国予防接種デー」が開催され、アフリカ大陸で最大のポリオ予防接種が組織的に実施されました。

2006年時点で、常在国はアフガニスタン、インド、ナイジェリア、パキスタンの4カ国に減少しています。2009年、撲滅活動に対するロータリーの寄付総額は8億ドル近くに上ります。同年1月、ビル&メリンダ・ゲイツ財団は3億5,500万ドルの拠出を誓約し、2億ドルのチャレンジ補助金をロータリーに交付しました。この発表により世界のポリオ撲滅推進計画への支援金は、合計5億5,500万ドルとなります。

2011年、10億ドルを超えました。

2012年、インドからポリオが撲滅されました。

2020年はナイジェリアも外されて、いま現在も続いておりますが、ポリオ常在国はアフガニスタン、パキスタンの2カ国となっています。

これは、2022年10月、ベルリン発のユニセフの記事から抜粋したものです。「今後の5年間で3.7億人の子どもにワクチンを」と、世界保健サミットで26億ドルの資金拠出が誓約されました。ベルリンで開催中の世界保健サミットにおける資金拠出誓約の場で、世界のリーダーたちによって「世界ポリオ根絶計画の2022年から2026年のポリオ根絶戦略に対して26億ドルの資金提供が約束されました。この資金はポリオ根絶に向けた最後の難関を突破し、今後5年間で毎年3億7,000万人の子どもたちにワクチン接種を行い、50カ国で疾病監視を継続するための世界的な取り組みを支えます。

この「世界ポリオ根絶計画」というのは、各国政府が主導していますが、国際ロータリー、世界保健機関、米国疾病対策センター、ユニセフ、ビル&メリンダ・ゲイツ財団、Gavi アライアンスの6機関が中心となって推進する官民のパートナーシップです。

野生ポリオウイルスは現在、パキスタンとアフガニスタンの2カ国のみで常在しています。2021年には6件の症例でしたが、2022年から29件と増えております。そのケースの中には、新たにアフリカ南東部で少数確認されたパキスタン由来の株と遺伝的に関連したウイルスによる症例が含まれています。

さらに、十分な人数が予防接種を受けていない地域で出現する可能性がある「cVDPV」というワクチン由来の変異したポリオウイルスがアフリカ、アジア、ヨーロッパの一部で広がり続けていて、ここ数カ月の間に

米国、イスラエル、英国で新たな感染例が検出されています。

先ほど、生ワクチン、経口ワクチンが紹介されてきました。非常に安いのですけれども、生ワクチンですから生きているのです。それがヒトの子どもの体の中で、場合によっては増殖して毒性を発揮する可能性があるとのことです。そうすると、ワクチンから出たポリオが世界中でそれは蔓延しています。これは国の外務省、厚労省などのホームページを見ると分かりますが、ワクチン由来のものがあります。

いま、ガザ地区でポリオの接種ができないことがニュースになっています。ガザで出ているのもワクチン由来のポリオで、子どもたちがワクチン接種できていないので、弱毒化したウイルスであっても、子どもによっては重篤化することがありますので、今は紛争中ですのでそれが心配なことです。

世界中の国が困難に直面している今、各国政府とパートナー機関は、人類が唯一根絶した疾病の天然痘に続きポリオを史上2番目に根絶する疾病とするために一丸となって取り組む決意を示すために歩み出しました。

拠出した資金の内訳ですが、ユニセフ、オーストラリア政府、フランス政府、日本政府も出しております。ビル&メリンダ・ゲイツ財団、そして一番下には国際ロータリーがあり1億5,000万米ドルだしております。これら官民のプロジェクトで撲滅のために資金を拠出しています。

ロータリーの取り組みについてです。ロータリーは地域や世界において、世界で最も困難な課題に立ち向かうリーダーが集まる国際社会です。ポリオ撲滅は、私たちが最も長く続く最も重要な取り組みのひとつです。私たちはパートナーとともに122カ国で25億人以上の子どもたちのポリオ予防接種を支援してきました。私たちは世界中でポリオの症例を99.9パーセント削減し、この病気を永久に終わらせるまでやめません。

ここからは皆さまへのお願いです。「ポリオプラス・ソサエティ」というものがあります。これは、ポリオプラスに毎年100ドルの寄付を約束する会員を認証するプログラムで、既に多くの国の会員が参加しています。この寄付は、各種認証の対象となり、クラブや地区の実績にもなります。また、ゲイツ財団によるロータリーの拠出金の2倍の上乗せ対象となり、ポリオ根絶活動に活用されます。100ドルを寄付すると、ゲイツ財団からそれに100ドルを上乗せしてもらえる仕組みになっています。

手続きの流れは、所属クラブ事務局に申込んでください。登録証とバッチが送られてきますので例会などで受け取ってください。継続的な寄付として、登録者は毎年100ドル、あるいはそれ以上をポリオプラス

にご寄付ください。これは、分割でも可能です。「マイロータリー」からも寄付はできます。マイロータリーは、クレジットカード情報を登録することでスムーズに寄付手続きができます。

また、日本円で公益財団法人ロータリー日本財団に寄付した場合は税制上の優遇措置の対象となります。

ロータリーカードの紹介です。ダイナースカードによる寄付ということで、クラブでロータリーダイナースクラブコーポレートカードを作って、クラブでの各種活動経費の支払いにご利用いただくことで利用額の0.3パーセントがポリオ撲滅のための寄付に充当されます。年会費は無料ですのでクラブでのカードの作成をお願いします。

それから、オリコカードです。オリコさんはクラブで作ることはできません。個人での作成となります。これも利用額の0.3パーセントがロータリーに送金され、ポリオ撲滅に役立てられます。0.3パーセントはオリコの負担となり、カード会員の皆さまには一切の負担がかかりません。年会費はゴールドカードとスタンダードのカードで違いますが、ゴールドでは11,000円、スタンダードカードは年会費無料です。申込み資格はロータリアンとその配偶者となっています。ロータリーカードで貯まったポイントもロータリー財団へ寄付することも可能です。

いろいろな寄付の方法がありますので、皆さまの実情に合ったかたちでポリオ撲滅にご協力をいただければと思います。

ご清聴、ありがとうございました。

謝辞 高橋 直人会長

国際ロータリー第2500地区第7分区・佐々木勉ガバナー補佐、本日は貴重なお時間をいただきありがとうございました。

佐々木ガバナー補佐におかれましては、10月24日のポリオ撲滅の日にとっても分かりやすいご講話をいただきましたことにお礼申し上げます。

ポリオ根絶には、私たちに一番できることは寄付することだと思います。これからもクラブ全体で取り組んでまいります。

ガバナー補佐という重大な役割の地区大会も終わり、一段落が過ぎたかと思われそうですが、これからも大変なことが数多くあると思いますが、健康に留意され第7分区のためにご尽力いただきますことをお願い申し上げて、本日の謝辞と致します。

本日はありがとうございました。